
私立スマ村学園

ユキーナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私立スマ村学園

【Zコード】

Z2835W

【作者名】

コキーナ

【あらすじ】

ある日対戦に飽きたマスターとクレイジーがある星にスマ村という村を作り私立スマ村学園という学校を作りました。 ファルコン家を中心としたドタバタ学園コメディー。

キャラクター紹介

十キャラを紹介十

マスター：私立スマ村学園の創立者であり校長。温厚な性格ではあるが変わりもので有名。

クレイジー：スマ村学園の教頭。おもしろい事が大好きでめんどくさがり。

『ファルコン家』

ファルコン：スマ村学園の体育の先生。ファルコン家の大黒柱で責任感が強く優しい父。たまに失敗するが持ち前の明るさで乗り切る。

サムス：科学の先生で小等部で理科も教えている。家事全般をこなす美人ママ。普段は優しいがキレると家事を放棄する。

リンク：スマ村学園の高等部に通う高校生。お菓子作りが得意で優しい剣士。ゼルダの事が好きだがまだ告白していない。

シーク：高校生。姿は全然違うがゼルダの分身。裁縫が得意。もの静かで大人っぽい印象だが腹黒い一面も。密かにリンクの恋を応援している。

ゼルダ：高校生。天然でおつとりしたハイラルの姫。美人。ゼルダもリンクが好き。平和主義者。ピーチとディイジーと仲良し。

ダークリンク：高校生。リンクの影が実体化した青年。人が大好きでよくゼルダにちよつかいをだし、そのたびにリンクと喧嘩にな

る。

アイク：高校生。グレイル傭兵团の団長。マルスとロイと仲良し。
無口だから無愛想に見えるが面倒見の良い頼れる兄貴。剣術使いで
もある。

マルス：高校生。アリティア王国の王子。可愛い顔をしているが男。
間違つても『可愛い』なんて言つてはいけない言つたら最後…。女
顔がコンプレックス。小悪魔で毒舌。

ロイ：高校生。フィレ家の公子。身長と体格がコンプレックス。純
粋で信じ込んだら疑わない。思つた事をすぐ口に出してしまう。
ちょっと子供っぽい印象。兄のリンクを尊敬。

ピット：スマ村学園の中等部に通う中学生。天使の羽を持つ少年。
見た目は天使だが、性格は小悪魔。ちょっとぴり寂しがり屋的一面も。
兄のシークを尊敬。

ネス：スマ村学園の小等部に通う小学生。PSIを持つ少年。チビ
ツコのリーダー的存在。頭もいい。大人っぽい一面も。

リュカ：小学生。チビツコ。スネーク家のトレーナーと仲良しでよ
く遊んでる。礼儀正しくちょっとびり甘えん坊。

カービィ：小学生。チビツコ。星の戦士。なんでも食べる雑食。や
んちゃで元気。メタナイトとヨッシーと仲良し。ファルコン家のマ
スクット的存在。

ポポ&ナナ

小学生。チビツコ。双子の兄弟でいつも一緒に。一人とも仲良し。や

んちやな頑張りやさん。

『マリオ家』

マリオ：Mr·Nintendo。国語の先生。ピーチの夫。氣さくで明るいおさつん。髭が特徴的。Dr·マリオとして保健の先生もやっている。

ピーチ：キノコ王国の姫。家庭科の先生。マリオの嫁。明るく優しいが怒ると恐い。マリオも頭があがらない…。ゼルダとディイジーと仲良し。

ルイージ：マリオの双子の弟。数学と算数の先生。ディイジーの恋人。兄のマリオと違って内気な性格。怖がりでお化けが大の苦手。

ディイジー：サラサランドの姫。スマ村学園の中にある保育園の先生。ルイージの恋人。優しくハツキリした性格。ゼルダとピーチと仲良し。お花が大好き。

ワリオ：地理の先生。トレジャーハンターとしても活躍。変態で下品だがおもしろいおさつん。クッパとガノンドルフとテテテの4人でよく飲み会をする。

クッパ：スマ村学園の警備員。亀族の大魔王。ファルコン家が好きでよく遊びに行く。いつの間にかチビッコの遊び相手に…。たまに仕事をサボることも…。

クッパジョー：小学生。クッパの息子。イタズラ好きでよく先生達にイタズラをしては、マスターに注意されている。ドンキー家のデイディーと仲良し。

ヨツシ－・マリオ家のペット。カービィと同じくなんでも食べる。それゆえカービィと気が合つ。また背中に乗る事もできる。

『スネーク家』

スネーク：外国語の先生。スネーク家の大黒柱。ファルコンと仲良しでよく一緒に酒を飲む。主に『父さん』、『親父』と呼ばれている。

トレーナー：中学生。本名はレッド（仮）。みんなは彼をトレーナーと呼ぶ。料理から洗濯、掃除となんでもこなすスネーク自慢の息子。ファルコン家のリュカと仲良し。

フォックス：高校生。いつも冷静沈着で勇敢。成績も優秀。いつもファルコと一緒にいる。

ファルコ：高校生。クールを気取っているが実は仲間を大事にする熱血漢。フォックスとは気が合い常に一緒にいる。

ウルフ：高校生。群れるのが嫌いでよく一人で行動する一匹狼。よく授業を抜け出して屋上でサボっている。そしてよくマスターに注意される…。

ピカチュウ：小学生。スネーク家のペット。いたて穏やかな性格でサムスによく懐いている。ガノン家のピチューと仲良し。

『ガノン家』

ガノンドルフ：PTAの会長。見た目は恐いが優しいおさつん。よく差し入れを持つてファルコン家に遊びに行く。

デデデ：スマ村学園の用務員。プップランドの自称大王。カービィ

を気に入っているためよくファルコン家に遊びに行く。家事は部下達にほぼやらせている。

ロボット・高等部で物理を教えている。穏やかな性格。わかりやすい授業をする。片言で喋る。

ピチュー・保育園生。ガノン家のペット。元気でやんちゃな性格。スネーク家のピカチュウとルカリオ家のリオルと仲良し。

『ルカリオ家』

ルカリオ・保育園の先生。いつもは冷静沈着だが弟のリオルが絡むと有り得ないくらいのブラコンになる。

メタナイト・剣術道場の師範。よくアイクとカービィと手合わせをしている。カービィには甘い。剣術道場は趣味の一環としてやっている。

ミコウツー・ミステリアスな性格。口は悪いが良いやつ。ルカリオのブラコンさに呆れている。

リオル・保育園生。お兄ちゃんのルカリオが大好き。ピチューと良しでよく遊んでいる。

『プリン3姉妹』

プリン・小学生。歌が大好きでアイドルを夢みる女の子。

ブクリン・中学生。素敵な恋を夢みる女の子。優しくしつかり者のお姉さん。プリンの姉。

プロプリン・保育園生。明るく元気な女の子。保育園の人気者。プリ

ンの妹。

『ドンキー家』

ドンキー・農家の「リラ。 煙で穫れた野菜や果物は学校の給食に使われている。

ディディー・小学生。 チビッコ。 ドンキーと仲良し。 元氣で明るいが少し寂しがり屋。 マリオ家のクッパリー・と仲良し。

『オリマー家』

オリマー・生物の先生。 ピクミンの主人的存在。 花を育てるのが趣味。 生物の先生の傍らツリーハウスで洋菓子店を営んでいる。

ピクミン・5色いてオリマーのペット的 existence。 よくオリマー や G & W のお手伝いをする。

M r . G & W ・ 学園の給食係り。 平面世界の住人。 片言で喋る。 穏やかな性格。

『ソニック家』

ソニック・中学生。 真っ直ぐな性格で曲がった事が大嫌い。 足の速さでは学園一速い。

シャドウ・高校生。 ソニックと瓜二つ。 クールを装っている。 力オスマエラルドの力で瞬間移動もできる。 学園で2番目に足が速い。

ティルス・小学生。 温厚な性格。 メカニックに詳しい。 ソニックの相棒的存在。

ヒーミー・中学生。自称ソニックのガールフレンド。元氣で明るいムードメーカー。さらに勝氣で行動力抜群。ソニックはしつこいと思っている

ナックルズ：高校生。ソニックのライバルでありケンカ友達。一生本気で真面目な性格。

ジェット：中学生。ソニックをライバル視している。プライドが高く、負けず嫌いな性格。ボードが得意

『ベクター家』

ベクター：カオティクス探偵事務所所長。喧嘩つ早く、口が悪いが情にまろく、仁義に厚い。頭脳明晰。

なぜかファルコンとスネークと気が合つ。チャーミーの一応保護者でもある。

エスピオ：高校生。カオティクス探偵団の「ご意見番にて忍者。冷静かつ物静かな性格。

チャーミー：小学生。カオティクス探偵団のムードメーカー。お調子者でおちょこちょい。遊ぶのが大好き。

『その他』

タブー：年齢不明。性格不明。マスターとクレイジーに対抗してタブー学園を造つた。

リン：高校生。FEのキャラ。転校生として登場。本名はリンディスで通称、リン。勝氣でさっぱりとした性格。アイクの事が好きになる設定。

キャラクター紹介（後書き）

書いてみたら中学生が少ないことが分かったので、増やしてみました。

新生活スタート！！

ある日、マスターとクレイジーが対戦を終えたスマブラメンバーを呼びました。

マスター『皆さん、お疲れ様です。お呼び立てしてすみません。実は皆さんにお願いがありまして…』

クレイジー『お願いと言つても決定事項だがな…』

「アルコン『お願い？決定事項？なんだ？』

マスター『お願いというのは、この星にスマ村という村を造ったのですが…そこに住む人がまだいないので。そこで、皆さんにこのスマ村に住みスマ村学園に通つていただきたいのです。』

サムス『家とか家族構成はどうなるの?』

クレイジー『家は用意できてる。家族構成と職業も俺達が決めておいた。』

と言つてクレイジーは家族構成と職業が書かれた紙を見せた。

紙にはこう書かれていた。

父：ファルコン 体育教師

母：サムス
科学の教師兼理科の先生

息子：リンク
高校生

娘：ゼルダ

高校生

息子：ダークリンク

高校生

息子：アイク

高校生

息子：マルス

高校生

息子：ロイ

高校生

息子：ピット

中学生

息子：ネス

小学生

息子：リュカ

小学生

息子：カービィ

小学生

息子：ポポ

小学生

娘：ナナ

<マリオ家>

夫：マリオ

国語教師兼保健の先生

嫁：ピーチ

家庭科教師

ルイージ

数学教師兼算数の先生

デイジー

保育園の先生

ワリオ

地理の教師

クッパ

学校の警備員

クッパジャー

小学生

ペット：ヨッシー

<スネーク家>

父：スネーク

外国语教師

息子：トーナ

中学生

息子：フォックス

高校生

息子：ファルコ

高校生

息子：ウルフ

高校生

ペット：ピカチュウ

小学生

<ガノン家>

ガノンドルフ

デデデ

ロボット

デデデの部下達

ペット・ピチュー

PTAの会長

学校の用務員

物理の先生

保育園生

<ルカリオ家>

ルカリオ

リオル

メタナイト

ミュウツー

保育園の先生

保育園生

剣術道場の師範

<オリマー家>

オリマー

ピクミン

生物の先生
給食係

Mr . Gamp; W

給食係

<ドンキー家>

農家デイデイー

小学生

<ソニック家>

ソニック

シャドウ

ティ尔斯

エミー

ナックルズ

ジェット

小学生
中学生
高校生

中学生

高校生

中学生

<ベクター家>

ベクター

エスピオ

チャーミー

カオティクス探偵事務所所長

中学生

小学生

♪プリン家♪

プリン

小学生プリン

中学生プリン

保育園生

以上

マスター『どうでしようか……？』

サムス『私はこれでいいわ』 ファルコン『俺もいいぞ……』

ソニック『OK！ 楽しくなりそっただぜ』

アイク『……別に俺はなんでもいい……』

マルス『僕もいいよ』

ガノンドルフ『なぜわしらの所は親父ばかりなんだ？？』

それに対してもマスターはニッコリ微笑みながら『決定事項です。文句ありますか？』と言いました。

その微笑みはある意味怖かつたので、ガノンドルフは『いいえ、ありません』と答えた。

その時、みんなは『決定事項なら聞く必要ないじゃん……』と思つていた。

クレイジー『みんな、良さそうだからみんなの家の地図渡すわ』

と言つて地図を渡した。

ファルコン家は、地図のとおり進んでいくと、三階建ての一軒屋の家の前に着いた。

ファルコン『ここか?』

サムス『地図だとこりよ』

ポポ＆ナナ『今日からここに住むの?』

ゼルダ『ええ、やつですよ。嬉しいですか?』

ポポ＆ナナ『わーい!…やつたー』

ゼルダ『それはよかつたです』

アイク『……それはそつと早く中入るつ……』

ファルコン『ああ、そうだな』

といった感じでファルコン家の人達は家に入つていった。

続く

部屋争奪戦

家に入ったファルコン家人達は部屋割りをすることにした。

マルス『僕は一番広い部屋がいいな…王子だしね！』

ロイ『ずる～い、僕も広い部屋がいい』

マルス『僕、王子なんだし当たり前』

ロイ『そんな理不尽な事ないよ～』

アイク『…俺は田のあたりがいい場所なりビ～でもいい……』

ピット『マルスもロイも子供だね…』

マルス・ロイ『お前にほ言われたくない！…！』

ピット『だつて僕、部屋なんてど～でもいいもん』

マルス『この僕を子供扱いするなんて…もう許さん』

『ああー、マルス怒らせちやつた（汗）僕知らない』と言つてロイは後ずさりをして逃げました。

怒ったマルスは腰にむしてある剣を抜きピットの前で構えました。

マルスが剣をピットに振り翳そとしました時、サムスがその剣を素手で掴み止めました。

サムス『マルスやめなさい、ピットも人が言われたら嫌な事は言わないの』

ファルコン『ハツハツハツハ、喧嘩はダメだぞ!』

マルス・ピット『はーい』

アイク『…結局、部屋割りどりますの…』

リュカ『僕、ネスさんと一緒に部屋がいいです…ネスさんいいですか?』

ネス『いいよ』

ポポ『ポポ、ナナと同じ部屋がいい』

ナナ『ナナも~』

サムス『はいはい、リュカとネス、ポポとナナは決まりね』

ゼルダ『私は、2階の部屋が良いですわ、よろしいでしょ?』

リンク『僕は、構わないよ。僕も2階の部屋がいいな』

ダークリンク『じゃあ、俺も2階』

シーク『じゃあ、僕も2階。ゼルダとダークリンクが一緒に階だと心配だしね』

ダークリンク『なんだとおー』

シーク『フフツ』

カービイ『ボヨ、僕1階がいいボヨ』

結局話し合いの結果こうなった

1階

ファルコン・サムス

リュカ・ネス

ポポ・ナナ

カービイ

2階

リンク

ゼルダ

シーク

ダークリンク

3階

アイク

マルス

ロイ

ピット

おまけ

スネーク家がたどり着いた家 赤い屋根の2階建ての家

マリオ家がたどり着いた家 青い屋根の2階建ての家

ガノン家がたどり着いた家 テテテ城（立て直された）

オリマー家がたどり着いた家 森の中にあるツリーハウス
プリン3姉妹がたどり着いた家 高級マンションの一角（家賃は全てマスターが負担）

ドンキー家がたどり着いた家 煙が近くにある平屋の一軒家

ソニック家がたどり着いた家 黄色い屋根の3階建ての家
ベクター家がたどり着いた家 力オティクス探偵事務所（マスターが勝手に持つて来た）

マスターとクレイジーは高級住宅に住んでいるとか…

転校生の予定のリンはマンションで一人暮らし

終わり。

部屋争奪戦（後書き）

ツリー・ハウスいいなー。一回住んでみたい！！

マスターとクレイジーの訪問

ピー・ローン、ピー・ローン

サムス『誰か来たわ、あなた出てきて』

ファルコン『ああ、わかつた』

ガチャ

そこには、人の姿をしたマスターとクレイジーがいた
ファルコン『なんだ? マスターとクレイジーか、とりあえず入って
くれ』

マスター『はい、ではおじやまします』

クレイジー『おじやま』

サムス『マスター、クレイジーいらっしゃい。今お茶いれるわね

ファルコン『それで、どうしたんだ?』

サムス『お茶どうぞ』

マスター『有難う』

クレイジー『サンキュー』

さつそくマスターとクレイジーはお茶を一口飲んだ

マスター『お部屋は片付いたかと思いまして、必要なものがありますから』
したら黙つて下さる。用意しますから』

『ファルコン』とりあえず、子供達のベットと机セットかな

クレイジー『カタログあげるから、見て欲しい物決める』

タルコン わかつた

と書いて、ファルコンは階段に行き子供達を呼びに行きました。

アカル二ン。おーい！みんな、集まつてくれ。

と語り、子供達はすこし勢いで下りてきました

『口才とコミュニケーション』

『ファンタジーカタログもらつたから、欲しいものを決めてくれ』

みんな
はーい！

ベラベラ
ベラ

ボボ、ボボ、この2段ベット欲しい！』

ナナ『ナナはね、このお人形さん欲しい』

マルス『僕、このベットがいい』

サムス『シーク、メモとつて』

シークは「クソと頷いてスラスラとメモをとつ始めた

ロイ『3DS』 ピット『Wi-Fi』 アイク『…Jのベット…』

カービィ『PSP』 ゼルダ『ファッショニズム雑誌』 ダークリンク
『i Pod』

マルス『マンガ』 リンク『テレビ』

シークがメモを書き終え、メモを見たファルコンが『おい、ちょっと待て何だこれ』と言つた

「メモ」

- ・ベット 9
- ・2段ベット 2
- ・机セット 13
- ・3DS
- ・Wii
- ・PSP
- ・ファッショニズム雑誌
- ・マンガ20冊
- ・テレビ
- ・お人形
- ・ミシン

ピット『何これってただのメモじやん』

ファルコン『いや、そうじゃなくて何だこの3DSとかWi-Fiって、生活に必要なものだけにしなさい』

ポポ&ナナ『だつて欲しいもん』

カービィ『ポヨ。僕も欲しいペポ』

ロイ『3DS』

マルス『マンガ』

ファルコン『困ったな…』

クレイジー『頼んでもいいぜ。全部買ってやるから安心しろ』

サムス『ええー。本当にいいの?』

クレイジー『マスター良いだろ?』

マスター『別に構いませんよ』

クレイジー『じゃあ、頼んじゃく。たぶん荷物は明日、届くと思つか
ら』

マスター『明日から学校です。中高生になる人は、制服が必要にな
るので買いに行きますので付いて来てください』

中高生『ハーア』

続く。

マスターとクレイジーの訪問（後書き）

あれだけのものを全部買つてマスターとクレイジーってどんだけ
金持ちなんだ…

お買い物の道のりは長い

マスターとクレイジーと制服を買いに行くことになつたファルコン家の中高生。

ファルコン・サムス『いつてらつしゃい』 チビッ「達』『いつてらつしゃい』

中高生『いつてきまや』 マスター『おじやましました』 クレイジー『じやましたな』

マスター『途中、スネーク家・ソニック家・プリン家・ベクター家に寄りますので』

みんなを代表して、マルスが『わかつた』と答えた

最初にスネーク家に寄つた

ピーポーン、ピーポーン

しばらくして、スネークが出てきた

スネーク『どうしたんだ?こんな大勢ですか?』

マスター『あなたの息子さん達をお借りしたいんですが、よろしいですか?』

スネーク『構わないが。今、呼んで来るから少し待つてくれるか』

マスター『わかりました』

スネークはマスターの了解を聞くと子供達を呼びに行きました
しばらくすると、トレーナー、フォックス、ファルコ、ウルフの4
人が出てきました。

ファルコ『これから、どこに行くんだ?』

クレイジー『お前らの制服賣場に行くんだよ』

ファルコ『ふーん』

トレーナー『リュカはいないの?』

ダークリンク『リュカは小学生だからな』

トレーナ『あ、そつか』

マスター『次プリン家に行きますよ』

今度はウルフがみんなを代表して『ああ』と言つた

プリン家にて

ピーポーン

すぐにプクリンが出てきた

プクリン『はーい。どうしたんですか、みんな集まつて?』

マスター『あなたの制服を買ひつので付いてきて下さい』

ブクリンは『わかりました』と返事をしてマンショソを出した

ソニック家にて

ピーポーン、ピーポーン

すぐに嫌々に抱かれるソニックとソニックに抱きつくヒミーが出てきた

ソニック『Hey! みんなそろつてどうしたんだい?』

クレイジー『お前らの制服買いに行くから、ナックルズとシャドウとジロットを呼んで来い』

ヒミー『わかつた。今呼んで来る』

ベクター家にて

ブー、ブー

しばらくして、寝起きのベクターが出てきた

ベクター『誰だあ? 人が寝てたのを邪魔しやがつて』

マスター『すみません。エスピオいますか?』

ベクター『エスピオ? いるぞ。呼んで来る』

ベクターはすぐエスピオを呼びに行きました

エスピオ『どうしたのだ皆、集まつて?』

マスター『みんな制服を買いに行くのですよ。あなたも付いてきて
下さい』

エスピオ『そ、うか、了解仕る』

続く

を賣に物の道のつけ表記（後書き）

エスピオの忍者言葉は意外に書もあり...。

女子の制服選びは長い……マルスはもつと

みんな、集まりお店に着いたマスター達

マスター『これから、皆さんに制服を選んでもらいます。男子の制服はブレザーか学ランのどちらか、女子の制服はブレザーかセーラーになります。』

ロイ・ピット・マルス・ブクリン『はーい』

エスピオ『うむ』

アイク・ウルフ・ナックルズ・シャドウ『ああシーケ『了解』

ソニック・ジエット『OK!』

リンク・ダークリンク『うん』

トレーナー・ヒー『わかった』

ゼルダ『はい』

フォックス・ファル口『おう』

とそれぞれ返事をして制服を選び始めた

♪選び始めて30分♪

アイク『……これに、しよう』

アイクは学ランに決まったよう

ロイ『僕も学ランにしよう』

ロイも決まったよう

リンク『僕はこのブレザーにしよう』

リンクも決まったよう

ファルコ『俺はこれにすむぜ』

ウルフ『俺も』

ファルコとウルフは学ランに決まったよう

エスピオ『描者、これにするだいだる』

エスピオはブレザーに決まったよう

トレーナーはブレザーに決まったよう

フォックスはブレザーに決まったよう

ダークリンク『やつぱり、俺は学ランだな』
ダークリンクも決まったよう

ソニックは学ランに決まったよう

学ランを着ているソニックを見てヒーラーは『キャー、ソニックカッ
コイイ』と騒いでいた

ソニックはそれを無視して更衣室に向かった

ピットとシークはブレザーに決まったよう

ナックルズ『男はやつぱり学ランだろ』
ナックルズも決まったよう

ジェットは学ランに決まったよう

シャドウは学ランに決まったよう

～選び始めてから1時間～

マルス以外の男子は全員決まった

マルス『僕は、ブレザーと学ランどっちにしようかな』

アイク『どっちでもいいから早くしてくれ…』

ロイ『マルス、この制服は?』

ロイが持つてきた制服はベージュのブレザーに青チェックのズボン
でした

マルス『うーん、微妙、却下。』

ロイ『えー。せっかく持つてきたのに』

エミーとブクリンが決まったよう

2人はセーラーに決定

ゼルダも決まったよう

ゼルダはブレザーに決定

ピット『マルス、この制服は?』

マルス『却下』

このやり取りがしばらく続き

（1時間30分後）

マルス『決まった』

マルス以外のみんなはグッタリ

マルスがえらんだのは紺のブレザーに青チェックのズボンで青を貴重とした制服

ピット『マルス、制服選びに時間がかかりすぎだ』

マルス『僕は、王子だから身だしなみを整えるのは当たり前』

それを聞いたみんなは苦笑い

その後、みんなはお金を払い家に帰った

結局、マルスが制服選びに掛かった時間は、トータル2時間30分

終わり。

『』なる入学式ー? ～前編～

今日は学園の入学式

入学式前、ファルコン家にて

サムス『みんな、急いで準備して』

ファルコン『ハッハッハ。今日からみんな学生か。若いっていいな』

サムス『あら、あなたも若いわよ』

ファルコン『サムスの方が若いぞ』

サムス『あら、あなたったら。ウフフ』

ピット『見てらんないよー。みんなこの2人は置いてさうと行こう』

ゼルダ『置いていくのですか?』

ピットは『うん!ダメー?』とウルウルした瞳でゼルダに聞いた

ゼルダ『はい、ダメです。みんな一緒に行くんです』

ピット『チホッ、やつぱりダメか』

ロイ『ピットにこんな特技が、あつたとは…』

アイク『…………』

マルス『どうでもこいけど、早く行こうよ』

ファルコンとサムスはとにかくまだイッチャついてる

ネス『……。お母さん、お父さんみんな準備できたよ』

サムス『じゃあ、行きましょうか』

その頃、マスターとクレイジーとガノンドルフは入学式のリハーサル中

司会はガノンドルフ

ガノンドルフ『これより入学式を始める。開式の言葉、クレイジー頼む』

クレイジー『おう。平成〇年、第 回入学式を行づぜ』

ガノンドルフ『校長式辞、マスター頼む』

マスター『クレイジー、本番もやるやるのでですか?』

クレイジー『は?』

マスター『は?じゃないですよ。ちゃんとした言葉遣いでやつてください』

クレイジー『あれって、ちゃんとした言葉遣いじゃねえの?』

マスター『はい。真面目にやつてください』

クレイジー『はー、めんべくせーな』

『何か言いましたか?』と言いながらニシコに微笑みながら指をポキポキと鳴らすマスター

それには顔が恐いガノンドルフも後ずさりし、クレイジーは慌てて『いいえ、なんでも……』と言った

入学式開始まあと10分、この調子でつまづくのか……!?

その頃、体育館には入学する子供やその親がたくさんきていたそこにはファルコン家の姿も

受付はミコウジー

ミコウジー『ここに代表者の名前を書け』

ファルコン『ああ』

スラスラ

ファルコンは書き終えるとスネークを見つけスネークの元へ消えた

ファルコン『スネーク、今日からお前のところの子供達も学生だな』

スネーク『ああ。お前のところの子だな』

ファルコン『そうだな。きょうはこの後、宴会だな』

スネーク『いいな！酒、早く飲みたいぞ』

ファルコン『じゃあ、やるならマスター達も呼んで盛大にやれ』

スネーク『いいな』

ちゅうじでここにウルフがやってきた

ウルフ『親父は酒のことしか頭にないみたいだな。もうすぐ始まるぞ』

スネーク『なぬ、ちゃんと他の事も考えてるぞ』

ウルフは『どうでいいけどよ。もすぐだから行くぞ』と言つてスネークを引っ張つて行つてしまつた

1人残されたファルコンも中へ入ることにした

ガノンドルフ『これより、入学式を始める、開会の言葉クレイジー頼む』

ピット『えー。司会、ガノンドルフなの！？ガノンドルフで大丈夫かな？』

ガノンドルフ『ピット、聞こえてるぜ。大丈夫に決まつてある』

ピット『僕は、無理だと思つけどね』

ロイ『確かに……』

ガノンドルフは『なんだとー』と怒り、司会など忘れてピットとロイに向かって走り出した

ロイ『ガノンドルフが怒った。ヤバイ逃げる』

ピット『やばい』

と逃げ出す2人、追いかけるガノンドルフ

いつのまにか3人の追いかけっこになってしまった

ファルコン『ハッハッハ。あいつ等たのしそうだな』

その言葉を聞いたアイクは『（この人、呑氣すぎる……）』と思つた

さあ入学式はどうなるのか……

続く

むづなる入学式！？（後編）

入学式中にも関わらず、追いかっこをする3人

呆れ返る、生徒達とその親達

そして、楽しそうに笑うファルコン

マスターは怒りに震えていた

そして、マスターに我慢の限界が…

マスター『いい加減にしてください。今は、入学式中ですよ。もつと場をわきまえて下さい』

しかし、その3人には、まったく聞こえていなかつた

いまだ、逃げているピットとロイ、追いかけるガノンドルフ

マスター『いい加減しろ！お前ら、入学式中だつて言つてんだろーが』

マスターはさつきより大きな声で言つた

それを聞いた一同は啞然。

ピット、ロイ、ガノンドルフは、額に冷や汗が流れていた

その後、マスターはその3人の元へ歩み寄り、『今は、まだ、入学

式中です。静かにお願いしますね』
とニーチ『つしながら言つた。

ピットとロイは驚きながら、『あ、はい』と言い。ガノンドルフも呆気に取られながら『ああ』と言つた

マスター』では、入学式の続きを始めましょうつか

全員『はーい』

ガノンドルフ『改めて開式の言葉、クレイジー頼む』

クレイジー『平成〇年、第 回入学式を行つ』

ガノンドルフ『続いて、校長式辞マスター頼む』

マスター『皆さん、『入学おめでとう』ります。今日から、皆さんは今日からこの学園の生徒になります。勉強に励み、友達をたくさん作り思いやりの心を大事にして下さい。ご家族の皆さん、今日は本当におめでとうございます』

ガノンドルフ『今から、入学生の名前を呼ぶので返事をしてくれ』

ガノンドルフが生徒達の名前を呼び、生徒達は返事をした

この後、まだ入学式が続いたが、みんなマスターがキレた後は誰一人として喋らず静かだった

ガノンドルフ『閉式の言葉、クレイジー頼む』

クレイジー『平成〇年、第一回入学式を終わりとします』

こうして入学式は終了した

続く

宴会準備で一騒動

入学式が終わり、ファルコンとスネークがみんなを集めた
ファルコン『みんな集まつてもらつて悪いな』

みんなはいや別にと言つ顔をした

スネーク『実は、俺とファルコンと計画していたんだが、このあと
公園で宴会したいと思つてるんだがどうだ?』

サムス『いいわね、楽しそうね』

ベクター『それって、俺らも参加していいのか』

ファルコン『もちろんだ。村の人なら誰でも大歓迎だ』

エスピオ『かたじけない』

チャーミー『わーい　宴会、宴会　　つて宴会つて何々?』

それを聞いたみんなは一斉に口ケた

ベクター『宴会つていうのはな、お祝い事があつた時にみんなで酒
や旨いものを食つてお祝いする事のことを言つんだ』

それを聞いたカービィは涎を垂らしながら『ペポーイ。美味しいも
のいっぱい食べていいの〜?』と聞いてきた

それに対してもゼルダは『食べても良いですが、皆さんの分も考えながら食べてくださいね』

ダーク『さすが、ゼルダだな。さすが俺の女』

それを聞いたリンクは『俺の女って、ゼルダは誰の女でもないよ』と切れのあるツッコミをいれた

ダークも負けじと『は？ゼルダは俺の女だ。人目あつた時からそう思つてた』と言つた

それに対しリンクは『それは、君が勝手に思つてるだけでしょ。ゼルダには指一本触れさせない』と言つた

ゼルダは今のリンクの一言にトキメキを感じていた

ダークリンクはリンクに対してわざと挑発するよつて『じゃあ、やつてみるよ』と言しながらゼルダの腕を掴もつとしました

がリンクによりそれは阻止され、バランスを崩したダークは近くにいたピーチの上に…

それを見たマリオはピーチがダークに襲われると勘違いし勢いよくダークに向かつていった

それを見ていたルイージが止めに入る

ルイージはダークに起きた事を全てみていたのです

ルイージはダークに起きた事をマリオに説明し、マリオの誤解をと

いたのでした

マリオ『いきなり、飛び掛つてすまなかた』

ダーク『別に気にしてねえよ…』

と一件落着

その間、大人達は誰が何を準備するか決めていた

結果、食べ物はファルコン家とオリマー家が準備することになった

酒はマスターとクレイジー

ジュースはスネーク家

場所確保はガノン家

他の人達はそれぞれお手伝い

ソニック『Wow, it's looking forward to
a banquet!!!』

テイルス『ソニック、なんて言ったの?』

ソニック『宴会が楽しみだなって言った』

着々と準備が進んでいた

続く

宴会で大暴れ！？

宴会準備ができた一同

カービィ『わーい。宴会　宴会　楽しみペポ』

デデデ『わしも楽しみだゾーイ。お酒が飲めるゾーイ』

マスターとクレイジーが司会

マスター『これより、大宴会を始めたいと思います』

みんな『イエーイー！』

ゼルダとピーチとティイジーがみんなに紙コップを配る

そしてリンクとシークが子供達の紙コップにジュースを入れて乾杯の準備をする

大人たちはチューハイやビールをクーラーボックスから取り出し乾杯の準備をした

マスター『乾杯の号令はクレイジーお願いします』

クレイジー『待ってたぜ。じゃあ行くぜ、乾杯！』

みんな『乾杯！』

みんなさつそく飲み始めた

ファルコン『やつぱりビールは面白いな』

スネーク『だよな。やつぱり男はビールだな』

ガノンドルフ『ガハハハ。酒はビールに限る』

マスターは『私も頂くとしましよう』と言ひてどこからかワインを取り出して飲み始めた

クレイジーはビールをもらつて飲んでいる

カービィはたくさんの料理を前にして、涎をたらしていた

カービィ『もう食べていい?』

サムス『ええ、いいわよ』

アイクは早速、『...肉...』と言ひてから揚げを食べ始めた

カービィもムシャムシャ食べている

ファルコが唐揚げを食べようとした時、

ウルフが『お前は食べちゃダメだろーー』と言ひ出した

ファルコ『はあ? なんでだ?』

ウルフ『お前は鶏だからな(笑)』

ファルコ『俺は一コトコトじゃない……』（怒）『

ナックルズ『そつ言えば、ジョットお前もじやね？』（笑）『

ジョット『俺は一コトコトじゃない、鷹だ！』（怒）『

テイルス『鳥は鳥だから一緒にない』（笑）『

ジョット『俺は鷹だ！』（怒）『

ナックルズ『はいはい』

マルス『僕、ちょっとトイレ行ってくる』

アイク『ああ』

マルスはトイレに向かった

マルスはすぐにトイレを済ませ戻りうとした

時にプリム達に声を掛けられた

プリムA『ヒューヒュー君可愛いね。俺らと一緒に遊ぼう』

マルスは無視して通り去ります

するとプリムBが『連れないな。またそういう所も可愛いね』と言つてマルスの腕を掴んだ

マルス『離せよ（怒）さつきから可愛い、可愛いってアンタが誰に

『言つてんの?』

プリム C 『誰に言つてんのつて話だよ』

マルス 『僕、男だけど (怒)』

プリム D 『またまた。嘘でしょ?。まったく可愛いな』

我慢の限界に達したマルスはプリム達を素手で殴つた

プリム B 『痛てえー。何しやがる』

マルス 『何つて僕を怒らせるからだよ (笑)』

プリム B は『調子のんなよーー』と言つてマルスに殴りかかってきた

マルスはそれをヒョッキと交わし、逆にプリム B を蹴り飛ばした

マルス 『まさか、今の本気じゃないよね?』

そこにはマルスが遅いので心配なったのかアイクが無表情のまま来た

アイク 『…何、やつてるんだマルス?』

マルス 『ああ、アイク…コイツら僕の事可愛いとか言つから懲らしめてた…』

アイク 『(マルスに可愛いなんて言つなんて…なんて命知らずな…)

『

プリム達は『あよ……今日は、このぐらいこなしてやるみ……』と言つて逃げて行つた

アイク『（負け惜しみか……）』

マルス『もう二度と僕の前に現れるなー』

マルス『アイク行こう…』

アイク『ああ』

と言つて宴会場に戻つた
その後は無事に宴会が終了した

終わり。

おまけ

実は、タブー学園も入学式が今日で一部の生徒が宴会に来ていた
そしてマルスに絡んできたプリム達もタブー学園の生徒なのだ

宴会で大暴れ！？（後書き）

マルスが可愛いって言われてもおかしくないと思つ…

春が来た（別の意味でも）

入学式を、終えてから数日がたつた

アイク『…今日、なんか転校生が来るらしい…』

マルス『そつなの？誰から聞いたの？』

アイク『クレイジー…』

ロイ『どんな子かな！？女の子？男の子？』

アイク『…女の子らしい…』

ロイ『わーい…やつたー。その子可愛いかな？』

アイク『知らん。（つてかどうでもいい…）』

そこにクレイジーが教室に入ってきた

クレイジー『今日は転校生がいる。さあ、入って来い』

ガラツ

と扉が開き女の子が入ってきた

クレイジー『じゃあ、自己紹介して』

転校生『はい。あつ…？』

クレイジー『どうした?』

転校生は『あの人この間会った!』と言つてアイクの方を指さした
アイク『…ああ、あの時の…』

ロイ『ええー? アイクあの子の事知ってるの?』

アイク『ああ、この前会った』

クレイジー『なんだ! ?お前ら知り合いだったのか?』

転校生『はい。この間、学園の入学手続きしに行こうとしたらタブ
ー学園の連中に絡まれているところをあの人助けられたんです』

ロイ『やるじやんアイク。もう少し、詳しく聞かせてよ』

アイク『面倒だ』

クレイジー『いいじやん。聞かせようよアイク』

アイク『そんな事よりコイツの血口紹介…』

クレイジー『そつだな。だけど後で教えるよ』

アイク『面倒だ。コイツに聞いてくれ…』

マルス『転校生、自己紹介して、後で詳しく聞かせて』

転校生『あ、はい』

転校生『私の名前はリンです。よろしくお願ひします』

ロイ『可愛い～。アイクいいなー』

アイク『じゃあ変わってくれ…』

マルス『アイクにも春が来たね…』

ゼルダ『リンさん、私はゼルダと申します。よろしくお願ひします』

シーク『僕はシーク。よろしくね』

リンク『僕はリンク。よろしくね』

ダーク『俺はダーク。よろしくな』

リン『うん。よろしくね』

みんな、それぞれ自己紹介をした

クレイジー『じゃあ席はちょうどアイクの隣が空いてるからアイクの隣で』

リン『はい』

リンは席に着き早速アイクに話しかけた

リン『この間はありがとうございました。私、リンよろしくね』

アイクは『いや…俺はアイクだ。よろしくな』と書いてフツと笑顔を見せた

この瞬間リンはドキッと胸が高鳴った

クレイジー『リン、ちょっと職員室に来てさつきの詳しく述べを

よ

リン『あ、はー…』

ロイ『するいー。僕も知りたい』

クレイジー『じゃあ、知りたいやつは全員来い』

シャドウ『フン。ぐだらん』

Hスピオ『まつたくでござる』

とこうのシャドウとHスピオだったがやっぱぱり氣になる様でアイク以外の全員は職員室に向かった

そこでアイクがボソッと『…結局、みんな行くのかよ…』と呟いた

続く

やつぱり好きな人の家にあがるのは緊張する…

職員室にて

クレイジー『リン、詳しく頼むぜーー..』

リン『は、はい』

『さかのぼる事2日前~

入学手続きをしをしよひと学園に向かつリン

人気の少ない道を歩いているとタブー学園に通つてい（通つているといつてもほほサボつてているが…）ブラックプリム達が声をかけてきた

プリム1『ねえ、君可愛いね。俺ひと一緒に遊ぼうぜ』

リンは当然シカト

プリム2『おい、シカトかよ』

リンはそれもシカト

プリム3『嫌がる姿も可愛いね。コイシ俺らのアジトに連れて行こ

リン『ちょっと、離してよーー..』

プリム3『嫌がる姿も可愛いね。コイシ俺らのアジトに連れて行こ

『せり

プリムー『いいね。連れて行け!』

リン『ちゅうとやだ。離しなさいよーー。』

リンが連れて行かれそうになつた時にちゅうとビ散歩していたアイクが通りかかった

アイク『おー、セリで向をしねー』

プリムー2『何だテメーは?』

アイク『そんな事はビリでもいい。その娘を離してやれ……』

プリムー2は『なんだとー』と叫びてアイクに殴りかかった

アイクはそれを軽々と避け、逆にプリムー2を蹴り飛ばした

プリムー2は星となりびっかに消えた

リン『(あの人、すぐ強いわーー)』

プリムー3『おー、「イツヤベーぞ』

プリムーは『あよ… 今日はこのままにしてやる。お、覚えてるよ
と叫びてコンを突き飛ばした

リンは『キャー』と叫びて畠端を睨つた

アイクは危ないと想い咄嗟に受け止めた

アイク『おい、お前大丈夫か?』

リンは閉じていた目をゆっくりと開いた

目を開いたリンの目の前にドアップのアイクの顔があつた

アイクの顔を間近で見たリンは『（こ）の人、強いだけじゃなくて力
ツ「ハイ…」』と思つたらしくリンは少し赤くなつた

アイク『おい、大丈夫か??.』

アイクの顔に見とれていたリン

リン『えっ、あ、うん。ありがと!』

アイク『立てるか?』

リン『あ、うん』

アイク『じゃあ、俺は行くから、じゃあな…氣をつけろよ』

リン『うん。じゃあねまたね』

アイクは『ああ。会つたらな』と言つてフツと笑つた

その時、リンはアイクに恋に落ちた

リン『（あつ、名前、聞いてない）』

アイクはスタスターと行ってしまった

リン『あの～お前は？（つて行っちゃったし…）』

ところわけである

マルス『やるね～アイク！～』

ロイ『アイクの癖に～。するい～』

ゼルダ『えらいですわ。アイクさん』

シーク『そつだね。なかなかできる事じゃないよ』

リンク『さすが、アイク』

ダーク『面白くなってきた』

ウルフ『フン。男として這たり前だ』

エスピオ『そのプリムとやらは弱いのだな…』

ファルコ『弱いなんてもんじゃない…』

シャドウ『弱いやつめぞく吠えるとは！」の事が…』

ロイ『女の子を突き飛ばすなんて最低ー』

マルス『それはともかく、アイクにも春が来たね…』

ロイ『リンちゃん。今日、うちに遊びに来てよ』

リン『えつ、いいの?』

ゼルダ『ええ、もちろんよ。是非いらして下さい』

リン『うん』

クレイジー『じゃあ、教室に戻るか』

~5分後~

ガラツ

教室に戻るとアイクは自分の机で眠っていた

みんなはアイクを起^レして家に帰る事にした

ロイ『アイク、起きるよ。帰るだ』

アイクは『……ああ』と黙りて起きた

ロイ『後、今日コンちゃんが元気で来るかい』

アイク『リンが?どうしてだ?』

ロイ『ゼルダが誘^アったんだよ……』

ゼルダ『ええ。そうなんです』

アイク『フーン。じゃあ、帰るか…』

～20分後～

ファルコン宅前に到着。

リン『あ～、なんか緊張する…』

アイク『やうが…？（なぜ、遊びに来ただけなのに緊張するんだ？）…わからん』

と無表情で思つていたアイクだった

ゼルダ『とりあえず、入りましょ～

みんなはそれに同意して家に入った

続く

アイクの未来のお嫁さん候補…！？

アイク『ただいま…』

学校から早く終わって帰ってきたチビッコ達はアイクの声を聞き勢いよく玄関まで走ってきた

カービィ『お帰りペポ。アイク兄けやん、お宿さんへ…』

アイク『ああ』

みんなはリビングに移動

ピットも帰ってきていた

ピット『アイク…まさかの彼女？？』

それを聞いたリンは少し赤くなつた

アイク『違つ…』マルス『そう、まさかのアイクの彼女なんだ…！』

アイク『だから、違つて…リンはゼルダの客』

アイク『さうだよ。アイクにこんな可愛い彼女なんてあり得ない

ピット『ゼルダのお客さん…？？本當ーー！？』

ゼルダ『ええ』

ナナ『お姉ちゃんはアイク兄ちゃんの彼女じゃないの？？』

ポポ『ロイ兄ちゃん、どうすり？？』

ロイ『アイクの彼女じゃないよ。絶対、彼女にさせたまるか…』

ナナ『ロイ兄ちゃん、お姉ちゃんの事好きなの？？』

ロイ『えつ…違つ、違つよ…』

『ただいまー』

ちゅうじゅうにサムスとファルコンが帰つてきた

サムス『ただいま。あら、お密さん？？』

ダーク『そつ、アイクの彼女だつてさ』

ファルコン『アイクの彼女・ハツハツハ青春だな』

リンク・シーク『本当は違うんだけど…』とボソッと呟いた

アイクはもう諦めたかのよつソフナーにドカッと座つた

サムス『あなたは前なんて言つの？』

リン『はい、リンとここまゆ』

サムス『リンちゃん、いつのアイクをよひへね』

それを聞いたリンは『えつ、は、はい』と困惑にがちに答えた

ファルコン『俺からもようじく頼む』

リンは『は、はい』と慌て赤くなつた

ダーク『これで、親公認だな…』

ロイ『違つて。リンちゃんは僕が連れてきたの～』

アイクは無表情で『ゼルダが誘つたはずじゃ…?』と聞いた

ロイ『そ、それは』

アイク『なんでもいいが、リンは俺の彼女じゃない…』

サムス『あら、そうなの?お似合いだと想つがビ』

リン『アイクさんはこの間、不良に絡まれてる私を助けてくれたんです』

アイク『リン、アイクでいい。さん付けはあまり好きじゃない…』

ファルコン『さすが、俺の息子だ。えらいぞアイク』

サムス『ええ。偉いわアイク』

ゼルダ『本当に偉いですね。アイクさん』

マルス『じゃあ、なんでゼルダはさん付けなの?』

アイク『何回かやめてくれって言つたんだが、もう諦めた…』

マルス『そつなんだ』

ダーク『仲良さうだし、そのこと付けてやえよ』

それを聞いたリンは驚いた

ファルコン『俺達はOKだぞ』

アイクはこの人達に何を言つても無駄だと語り諦め黙ってしまった

こうしてリンはアイクの未来のお嫁さん候補となつた

それを聞いていたロイは泣きそつた顔をしていた

リンは夕食を食べていくことになつた

夕食の際にリンはFEの世界にいた時のアイクの話をマルスからいろいろ聞いた

そして帰り際にアイクはリンの見送りをした

アイク『じゃあな。またいつでも来い…』

リン『遊びに行つてもいいの?』

アイク『ああ……』

リンはましますアイクが気になるよいつになつた
終わり。

アイクの未来のお嫁さん候補…！？（後書き）

これからアイクとリンがどうなるか気になります。
私、ユキーナもアイクが大好きです。

クッパジョー 初めてのおつかい

今日、小等部では、お手伝いという宿題が出された

マリオ家にて

クッパジョー、『パパ』。お手伝いって、何すればいいの？？』

クッパ『我輩に聞かれてもなあー。マリオに聞け』

クッパジョー、『マリオおじさん。お手伝いって何すればいいの？』

マリオ『うーん、お手伝いね。とりあえず、ピーチに言われた事や
ればいいんじゃない』

クッパジョー、『ピーチ。お手伝い、何すればいい？？』

ピーチ『とりあえず、おつかい頼めるかしら？』

クッパジョー、『わかった』

ピーチは買い物カゴとメモと財布を用意してクッパジョーに渡した

ピーチ『メモと財布が入ってるからね。財布落としちゃダメよ』

クッパジョー、『わかった』

クッパ『我輩、心配だなー』

クッパジョー、『パパ。大丈夫だつて僕パパの息子だよー！！』

クッパ』『そ、うか、そ、うか（だ、が、心配だなー）』

クッパ』『『じ、やあ、こ、つてきまーす』』

マリオ家全員『いつてらつしゃい』

ピーチが渡したメモに書かれていた事

| | |
|-------|------|
| にんじん | 1本 |
| たまねぎ | 2個 |
| じゃがいも | 4個 |
| 豚肉 | 300g |

クッパ』『おつかい　おつかい　楽しいな』

クッパ』は最初に八百屋に向かった

クッパ』『おじさん。にんじん1本、えつーとじゅがいも4個とたまねぎ2個下さい』

おじさん『はいよ。全部で400スマだよ（スマ=田）』

クッパ』は400スマを渡して、野菜が入った袋を受け取った

クッパ』『ありがと。おじさん』

おじさん『おつよ。これはサービス受け取りな』と並んで立った
てくれた

クッパ♪「は嬉しそうな顔をして『ありがと』と言つた

フフーンフーンンと鼻歌を歌いながら道を歩きながら『りん』を食べるクッパ♪、

次に向かつたのはお肉屋さん

クッパ♪「はメモを見ながら注文した

クッパ♪「おばちゃん。豚肉300㌘で二』

おばちゃんは『あこよ。坊やこれ食べる?』と並んで試食用ワインナーを見せた

クッパ♪「は嬉しそうに『うん ありがとう』と並んだ

おばちゃんは『あこよ。お代は食べた後でいいよ』とワインナーを渡してくれた

クッパ♪「はーい』

パクパク

食べ終わつたクッパ♪「は『おばちゃんごへいっ』と聞いた

おばちゃん『200スマだよ』

クッパ♪「は『いい』と並んで200スマ渡した

おつかいが終了したクッパ♪「は帰る」とした

帰り道の途中で飴を舐めていた『ディーディー』と会った

クッパジャー、『その飴どうしたんだ?』

ディーディー『ウキッ、ウキーキー、ウキヤ（お手伝いしてもらつた）

』

クッパジャー、『いいなー』

ディーディー『ウキ、ウキ、ウキーキー（お金もつてゐなうそれで買
つちやいなよ）』

クッパジャー、『そつだね』

と言つて2人で駄菓子屋さんに向かつた

クッパジャー、『おばあちゃん。ペロペロキャンディーひつだい』

おばあちゃん『50スマだよ』

お金を受け取つたおばあちゃんはペロペロキャンディーを渡した

その後もいろいろ買つた2人

結局、財布の中身を全部使つてしまつた2人

その後、クッパとワリオ意外のマリオ家全員にこいつ酷く怒られたク
ッパジャー、

ちなみに「ティーティーはダンキーにものす」に怒られてタンゴもつ
くつたらしい

2人が買つたもの

クッキー

せんべい

ガム

飴

ポテチ

ラムネ

コーラ

とん○りゴーン

マドレーヌ

グミ

などなど…

クッパはちゃんとお買いものができた事に感動したらしい

終わり。

おまけ

ちなみにファルコン家のチビッコ達は掃除のお手伝いをしたらしい
頑張つた!」褒美にリンクがチョコレートケーキを作ってくれたらしい

『トイイジーの悲劇

これは保育園の先生をしてこらるトイイジーにおきた悲劇
トイイジーにはある口課がある

それは毎日、6時～7時までの一時間の間、ランニングをしている
こと。そのランニング中に起きた悲劇である

ある日、保育園での仕事を終え家に帰ったトイイジー

家に着いたトイイジーは着替えてさっそくランニングに行くことにした

靴を履いているトイイジーの元にルイージとパー・チが来た

ルイージ『トイイジー、ランニングに行くのか?』

トイイジー『ええ』

ペーチ『あまり、無理しないでねー!』

トイイジー『ええ。分かってるわ』

ルイージ『がんばって』

トイイジー『うん。いつときまーす』

ペーチ・ルイージ『いつてうひしちゃい』

家をでた。『ディイジーは水を買つためにコンビニに向かった

コンビニ店員『いらっしゃいませ』

『ディイジーはドリンクコーナーに向かい水を選びレジへ

ペッ

コンビニ店員『テープでよろしくですか?』

『ディイジー『はい』

コンビニ店員『いかがお5スマになります』

『ディイジーは110スマ払つた

コンビニ店員『110スマお預かりします。5スマヒレシートのお返しです。』

『ディイジー『レシートはこりなによ』

コンビニ店員『やつですか』

『ディイジーはコンビニを後にした

去り際に店員が『有難うございました』と言つていたのが聞こえた
しばらく走つているとメタナイトの剣修行から帰るアイクとカービ
ィの姿が見えた

カービィ『あつ、デイジーだペボ』

アイク『…本当だ』

デイジー『お疲れ2人とも

アイク『ああ。デイジーも』

カービィ『頑張つてペボ』

デイジー『ええ。2人とも気をつけて帰るのよ

また、しばらく走っていると遠くから『ママ～』と呼ぶ声が聞こえた

後ろを振り返ると小さい人影が見えた。

暗くてよく見えなかつたので気にせず走っていたら

また、『ママ～』と呼ぶ声がした

デイジーはまた振り返ると小さな人影が見えただけだった

今度は前を見たが誰もない

デイジーは不思議に思いながらも走り始めた

今度は『ママ～』と呼びながら人影が近づいてきた

デイジーの前には誰もいない、後にその人影

デイジーはその人影が言っている人物は自分だという事に気が付いた

デイジーはその人影の事を待つてみることにした

そこに現れたのはクッパジャーだった

クッパジャー、なんだ、デイジーか。ママかと思つた

デイジー『ピーチと間違えたのね。ジュニアどうしてこんな所にいるの?』

クッパジャー、学校終わった後、デイジーとサッカーしてたら遅くなっちゃた』

デイジー『こんな、遅くまで遊んでもちやダメじゃない!!』

クッパジャー、わかった。次から気をつけるよ』

その後、2人して帰つた

デイジーには子供もいないし、まだ結婚もしていません

なのにママと間違えられてしまったデイジーの悲劇

おまけ

お買い物事件があつてから、ジュニアにクッパはピーチのことを『ママ』

と呼ばせむようになつたらしい理由はよく分からぬが…

その際マリオが猛反対したが、意味なく終わつた

ちなみにマツオはまだおじさんと呼ばれている
ルイージもおじさんと呼ばれている
ワリオはおっちゃんと呼ばれている

終わり。

ベクターの一日

カオティクス探偵事務所所長のベクターは暇だったので（いつも暇だけど）散歩をしていた

ベクター『しつかしこんだけ暇だと俺の事務所としては困るぜ〜』

ナックルズ『よおベクタービ〜したんだ？』

ベクター『ああナックルズ、事務所が暇だから散歩をしているんだよ』

ナックルズ『そうか…それは事務所としても大変だろ』

ベクター『そだよ客が来ないから暇で暇で…』

ナックルズ『まあがんばれまたな』

ベクター『ああじゃあ』

（公園）

ピカチュウ『ピカッピカチュウー』

ピチュー『ピチュピチュー』

ベクター『おおピカチュウにピチューどうしたんだ』

ピカチュウ『ピカッピカチュウッ！』

ベクター『ん？あの木がどうしたんだ』一応言葉は分かっています

ピカチュードピカツピカツ』

ベクター『なるほどあの木にピчуーの風船が引っかかったんだな』

ピチュウ『ピチュー』

ベクター『よし待ってる今取つてくる』

～木の上～

ベクター『あともひちゅうと…』

バキッ

ベクター『ノアアアアアア』

ガニツ

ピカチュウ『ピカツピカー！？』

ピチュードピチュツピチュー』

ベクター『いてて…ほら風船取れたぞ』

ピチュー『ピチュ～ピチュー（ありがと～）』

ベクター『ははつこいつことよ困った時はお互い様だ』

ピカチュウ『ピカ～』

ピチュウーピチュ～』

ベクター『またなー』

～ファルコン家の前～

リンク『あつベクターさん』

ベクター『おうリンクどうしたんだ?』

リンク『実は皆のおやつを作りつと思つたんですけどガスが故障していのを忘れて仕上げのところまで作つてしまつたんです』

ベクター『だつたら俺に任せらちよつとそのおやつを持つて来い』

リンク『えつはー…』

リンク『持つてきました』

ベクター『よしつちよつと離れてろいぐぜー』

「オオオオオオ!

リンク『す…す』』ベクターさん炎をはけるんですかー』

ベクター『へへつにんなもんでどうだ』

リンク『色もまだりですありがと「うわこまく』

ベクター『いじつてことよまたな』

リンク『あつベクターさん…行つけたせつかく食べてもひみつ
と黙ったのに』

「人氣のない道」

ベクター『わーしてさあ帰るか』

プリム1『よおよお兄ちゃん俺達にほりとれたくなきや金よこしな』

プリム2『へへつ痛い田見るぜ』

ベクター『悪いが俺は貧乏なんでな金はねえんだよ』

プリム3『だつたら仕方ない俺達のストレス発散の相手しぃや』

プリム4『へへつじくぜー』

プリム4が殴りかかるつとしたとき

ベクター『オーラマツー』

プリム4『ブヘエッ』

ベクターは軽くよけて殴り返した

プリム2『てめえ何しやがる』

ベクター『それせいかちのせりふだぜまつたく』

プリム1『くそひやひあえ』

プリム4人がベクターに一斉に飛び掛けた

ガンツ

ドンツ

ボカアンツ

ドカアンツ

プリム3『グ…ハツ…』…』つ強ええ』

ベクター『おめえらが弱すぎるんだよもつと痛い目見るか?..』

プリム1『ひつ…今日の所はかんべんしてやる』

ベクター『おうどつとと帰れ』

プリムは本当に弱い

～カオティクス探偵事務所～

ベクター『まつたくあいつら弱いつてもんじやないぜ』

エスピオ『やはり弱いか…』

チャーリー『よわよわ~』

ブー ブー

ベクター『ん?誰だ』

そこにはガノン家、そしてファルコン家がいた

ベクター『どうしたんだ?監視して』

ファルコン『いやあ今日はベクターのおかげで皿のおやつが食べれ
たんだよそれでこれはお礼だよ』

カービィ『ボヨ美味しかったからおすそ分けペホ

ベクター『おおありがとう』

ガノン『家のピチューが世話になつたからこれをする』

ピチュー『ピチュー~』

ベクター『おおワソゴがこんなに悪いな』

マルス『今日のおやつは王子の僕も好評だよ』

ロイ『美味しかったよ』

アイク『ああ』

サムス『よかつたら食べてくださいね』

ベクター『皿すまねえなありがたく貰つておくれよ』

ファルコン『じやあ俺達はこれで』

ガノン『またな』

ベクター『ああじやあな』

おまけ

早速貰つたお菓子とリンゴを食べるベクター一家

エスピオ『この菓子はつまらないな』

チャーミー『リンゴもおこし〜』

ベクター『ははつこい』と呑つていいいもんだな

チャーミー『こここと、こここと〜』

エスピオ『そうであるな』

ベクター『今日は暇な一日じやなかつたな（笑）』

終
わり。

ベクターの一日（後書き）

弟がベクターが好きなんで書いてみました結構よかったです

落ちているものは食べちゃダメ…

ある日、体育の授業でドッヂボールをする小学生、中学生、高校生
(体育は子供全員で)

マルス『行くぞー、えいつ！…』

マルスが放ったボールはカービィに向かって一直線

余所見をしていたカービィ

ネス『カービィ、危ない！…』

ボーン

カービィ『ポーヨー！…痛いペポ(泣)』

リュカ『大丈夫、カービィ？？』

カービィ『大丈夫ペポ。でもちょっと休むペポ』

木陰に向かうカービィ

最初から外野のロイ

ロイ『カービィ大丈夫？？』

カービィ『大丈夫ペポ』

木陰で休みに行くカービィ

木陰で落ちている木苺みたいな実を見つけたカービィは近くにいたロイを呼んだ

カービィ『ロイ、ちょっとこっち来て』

ロイは『ん? 何?』と声でカービィの元へ向かった

さつきの実を見せながら『これ食べていいかな??』と聞くカービィ

『あ?』と言つて首を傾げるロイ

パクッ

カービィはさつきの実を食べてしまった

カービィ『美味しい!!』

『本当?』と言つてロイも一口でパクッ

ロイ『旨い~』

しばらくすると2人の体に異変が…

カービィとロイにネコ耳が生えたのだ

ロイ『カービィ! ネコ耳が生えてる』

カービィ『ロイもポコ』

『えつーー..』と語って慌てて頭を触り確認するロイ

ロイ『えーーー何だこれー（泣）』

ロイの悲鳴を聞いたみんなが集まってきた

アイク『ひうした？…』と語ってロイの姿を見て言葉を失った

マルス『ひうしたのその耳（笑）？』

マルス『ロイ、そんな趣味あつたの（笑）？』

ロイ『違ーう！…変な木の実、食べたらひつなつたの（泣）』

ゼルダ『ロイさん可愛い～』

ダーク『こいや、笑えるぜ』

ロイ『そんな事言われても嬉しくない（泣）』

ファルコン『.....』

リン『どうしまじょうか…？』

リンク『そんな事言つなよロイが可哀想だろ』

シーク『とりあえず、ローマンコのところに行つてみたら？』

ピット『さすが、シークさん』

ソニック『早くドク・マリオのところに行こうぜ』

みんなでドク・マリオの元へ向かった

Dr・マリオ『どうしました?』

カービィ『木の実を食べたらネコ耳が生えた』

2人からシッポが生えてきた

ロイ『うわあー シッポまで生えた〜』

Dr・マリオ『おそらく、2人が食べたのはネコの実だな』

ナックルズ『ネコの実ってそのままじゃん…』

Dr・マリオ『大丈夫! 2日たてば自然に治る』

ピローン

今度はヒゲが生えてきた2人

シャドウ『ヒゲまで…すげいな』

ポポ＆ナナは『シッポ、シッポ〜』と言いながらカービィのシッポでじゅれていた

Dr・マリオの診察を受けた2人とみんなはそれぞれ家に帰ることにした

家に着くには2人は完全に猫になってしまっていた

ロイ『ニヤーニヤ（ただいま）』

アイク『言葉もネコ語…』

サムス『どうしたのロイ・カービイ！？』

ファルコンがサムスに詳しい事を説明した

その後がもう大変

ロイはサムスとゼルダに抱きしめられたり、スリスリされたりとそれは大変可愛がられた、ロイはアイクに助けを求めるようとしたがアイクは寝ていて、ダークは羨ましそうにこっちを見て、リンクはおやつを作り、シークは縫いものをしていた

マルスとピットはゲームをしていてファルコンはテレビを見ていた

カービィはポポとナナにオモチャにされ、それを見たネスとリュカは哀れに思っていた

そして2日後、元の姿に戻った2人

2人にとってこの2日間は地獄だつたらしい

終わり。

おまけ

スネーク家でもスネークがその実を食べてしまい猫化したらしい

そしてウルフとファルコの2人に散々いじられたらしい

全部勘違いから……

ある日、僕が学校から家に帰るとお母さんが怒りながら荷物をまとめていた

僕はお母さん『ビビッたの?』と聞いたが何も答えてはくれなかつた

そこで僕は一旦自分の部屋に行きかばんを置いてくることにした

僕がかばんを置いてリビングに戻ると先に帰っていたお父さんアイクとロイとマルスがいた

ロイ『あっ、リンクおかえり』

マルス『おかえりー』

アイク『リンクおかえり』

リンク『ただいま。ねえ、お母さんどうしたの?』

ロイ『よくわかんない。父さんとケンカでもしたんじゃない?』

マルス『そうじゃない』

アイク『俺、母さんから聞いたんだけど……』

リンク『うん……どうしたのアイク』

アイク『父ちゃんが浮氣されたってわしゃれて泣いた…』

ローハイ『あの父さんが浮氣ねえー。あり得ないー』

マルス『僕もそいつ思つ。あの母さんベタ惚れのお父さんが浮氣なんかするはずなによ』

アイク『俺もそいつ思つたこナビ…母さんが血ついは今日、買い物中に見たんだつて…』

リンク『お母さんは何を見たの』

アイク『…父さんが綺麗な女の人と一緒に歩いてるのを見たらしき…』

ローハイ『見間違こじや…?』

アイク『見間違こじやないこ…』

しばりく『僕とその3人は考え込んでいた

お母さんの置手紙にはいつも書かれていた

じまひく『お母さんが置手紙を置いて出て行つたこと』

子供達へ

勝手に出て行くことをお許しくだせ』

この事が落ち着くまで私はマリオ家にお世話にならうと思います何かあつたらマリオ家にこりますので来てください

私はあなた達をずっと愛しています

しばらくの間さよなら

これを読んだ僕達は呆然と立ち尽くすしかなかつた
とそこにゼルダとシークと日直であつたはずダーク、が帰つてきた
その3人に今までの事を話すとゼルダは泣きながら自室へ行つてしまつた

ダークは『『『』』』『』』『』』
と父さんに対する怒りをあらわにし、シークはダークをなだめていた

僕はゼルダを慰めに行つた

今、ゼルダの部屋の前

「ン」

ノックをしたが返事がない

僕は大丈夫かなあと想い『ゼルダ、入るよ』と言つて部屋に入った
ゼルダはベットに顔をつけ泣いていた

僕が『ゼルダ、大丈夫?』と言つてゼルダに近づくとゼルダは僕に抱きついてきた

リンク『ちょっと…ちょっとゼルダ!?』

ゼルダは『ちょっとだけこうさせ下さい…』と言つて僕の胸に顔

を埋めた

～10分後～

ゼルダは落ち着いたのか顔をあげて『もう大丈夫です』と言つて微笑んだ

ゼルダの皿が少し赤かつたので、僕は冷たいタオルを持ってきてゼルダの皿を冷やしてあげた

するとゼルダは僕に『ありがとうございます。リンク』と言つて一ツ「コ」リと微笑んだ

僕は『いや、当然のことだよ』と照れくわい丈に言つた

～皿を冷やし始めて5分後～

ゼルダの皿はもう赤くなかったので、リビングに戻る事にした

リビングに戻るとチビッコ達とピットが帰ってきていた

お母さんが出て行つたことを知つたチビッコ達は一斉に泣き出しつしまつた

アイクは『大丈夫。母さんは帰つてくる』と言つてチビッコ達を慰めていた

それを聞いて少しばんは安心したのか泣き止んだ

そのとき、事件の発端となつたお父さんが帰ってきた

僕がお父さんにお母さんが出て行ったことを伝えるとお父さんは急いでお母さんの元へいそいだ

途中なぜかスネーク家に寄り綺麗な女人と一緒に連れて行つた

『マリオ家にて』

ピンポーン、ピンポーン

すぐにピーチさんが出てきた

ファルコン『サムスはいるか?』

ピーチ『ええ…どうぞ入つて』

みんなで中に入った

中に入るとお母さんがいた

チッビ口達はお母さんを見るなりお母さんに飛びついた

お父さんと綺麗な女人はお母さんの元へ行つた

サムス『貴女はこの間、主人と一緒に歩いてた人!?』

綺麗な女人『ええ。 そうよ』

サムス『アナタ、なんでこの人がここにいるの(怒) 説明して』

ファルコン『ああ、言つておぐが、この人は女じゃないぞ…』

サムス『嘘つかないで。この人どう見ても女じゃない（怒り）』

綺麗な女のは人は『嘘じゃないわ。私は男よ』と言つてマスクをはずした

そこに現れたのはなんとスネークだつた…

サムス『えー、なんでスネークがここに？』

スネーク『それは俺があの女に変装していたからだ』

それを聞いたファルコン以外の全員が驚いた

サムス『なんで、そんな格好してたの？？』

スネーク『ああ、極秘任務があつてな。あの時、少しファルコンに手伝つてもらつたんだ』

サムス『なんだ、全部私の勘違いだつたのねごめんなさい、アナタ』

ファルコン『いや、分かつてくれれば良いんだ』

と言つて仲直りし無事に家に帰つたサムス

おまけ

迷惑をかけられたマリオ家はこの日、ファルコン家の夕食に呼ばれたらしい

終わり。

スマ村の面白い話1

面白い話 其の1

先日、僕^{ネス}と弟のリュカとカービィでWiiで遊んでいると洗濯物を取り込んで戻ってきたお母さん（サムス）が『あなた達はいいねえ！－毎日がエブリデイで』と言った。
お母さんはいつたい何が言いたかったのだろうか…。

面白い話 其の2

先日、放課後の学校で泣いているプリンを教頭^{クレイジ}が発見。

びつして泣いているか聞くと好きな子に告白したがフラれてしまつたらしい。

そこで教頭は慰めるつもりで「人間、顔じゃないぞ」と言つ所を間違えて『お前の顔は人間じゃないぞ』と言つてしまった。

その後、プリンが大泣きしたのは言つまでもない。

終わり。

スマ村の面白い話1（後書き）

インターネットに載っていた面白い話を（スマ村の人で）再現してみた。

スマ村の面白い話2

面白い話 其の1

ある日、スネーク家でスネークとウルフが喧嘩をしていた。スネークが「バカモノ！」といつのを言い間違えて『バケモノ！』と怒鳴ってしまった。喧嘩はさらヒートアップしてしまったのは間うまでも無い。

面白い話 其の2

マリオとピーチが2人して朝寝坊してしまい、急いでお弁当を作つているピーチに『おかずは、気持ちが入つていればなんでもいいよ』といつたら、お弁当の中が全部キムチになつていた。

面白い話 其の3

弟のルイージは頭が痛くなると、氷でおでこを冷やします。先日も夜中にかなり痛みがひどくなり、フラフラしながら山所く。冷凍庫からあらかじめビニール袋に入った氷を取り出しあでこに乗せ眠りました…。

翌日、心配になつた僕がルイージの部屋に入るヒルイージのおでこに解凍されたイカが乗つっていました。

終わり。

スマ村の面白い話2（後書き）

これはインターネットに載っていた面白い話を（スマ村の人で）再現したのを書いてみました。

「ピッタの逃亡」

事の始まりは…

「30分前」

僕^{ピッタ}が帰つてくると、ビングでマルスがお昼寝中

そこで僕は寝ているマルスにイタズラをする事にした

（ピッタ）（やつぱり寝ている人にイタズラをするなら落書きだよね）

マルスが起きないよう気につけながら髪を書いたり、ほっぺには
バーカ、アホ王子などいろいろ落書きをした

そして僕はマルスが起きないうちに自室に逃げ込んだ

（ピッタ逃亡）まで5分前

ピッタが自室に逃げ込んでから30分がたとつとしていた

そこにロイが帰ってきた

ロイ『マルス、何その顔（笑）！？』

マルス『んあー。何？？』

ロイ『顔すごい事になつてゐるよ（汗）』

マルス『えつ？本当？？』

ロイ『うん。鏡見てみたらー!?』

マルス、鏡でチェック

マルス『ああーー。誰だ、僕の美しい顔に落書きしたのは…』

ロイ『とつあえず、顔洗えば!…』

マルス『うん。もうする』

バシャバシヤ

ロイ『とつあえず、僕達の他に家にいるのはピットとアイクだけだよ』

マルス『アイクはこんな事しないだろ!からピットだな…』

マルスは怒りながらピットの部屋へと向かった

ロイもマルスの後を追った

マルス『ピット…………よくも僕の美しい顔に落書きしたな(怒)』

ピットはマルスの怒号が聞こえたのか窓から飛び去った(ピットは一応天使なので飛べる)

～そしてピット逃亡～

マルスとロイがピットの部屋に着いた時にはそこは蛇の殻もねかだった

マルス『チツ、逃げられたか。ロイ、ピットの捕獲を開始する』

ロイ『ええ～。僕も協力しなきゃダメ??』

マルス『うん。これは王子命令だからね（笑）』

ロイ『う～。じゃあ、アイクにも手伝つてもらおう』

マルス『そうだね』

早速、2人はアイクの部屋に向かつた

ガチャ

アイクは自室で丸まつて寝ていた

その丸まつて寝ている姿からはいつものアイクが想像できないほど無防備な姿だつた

とりあえず2人はアイクを起こし協力要請をした

説明を聞いたアイクは快く引き受けた

続く

「アーティストの逃亡」(後書き)

この後も、アーティストの逃亡中といつお話を書いていきたいと思います。

ピット、迷宮中

血室から逃げ出したピットはとつあえずマリオ家に行く事にした

マリオ家に到着

ピンポン、ピンポン

ピーチ『はい。どなたですか?』

ピーチの声がインターホーン越しに聞こえてきた

ピット『ピットです』

ピーチ『ちよつと待つでね』

ガチャ

ピーチ『どうぞ。入って

ピット『はー』

入ってびっくりにほゼルダが…

ゼルダ『あら、ピットさん。どうされたなんですか?』

ピット『あれ!?.ゼルダ!?.何してるの?』

ゼルダ『ピーチとお茶ですわ』

ピット『そ、うなんだ。やつぱり僕帰るね（汗）』

ピーチ『帰つちやうんですか！？』

ピット『うん。また今度ね』

ピットは大急ぎでマリオ家から出た

ピット『（まさか、ゼルダがいるとは…。そのままいたらマルスからゼルダへ連絡がいって捕まるところだつた）』

ピットがマリオ家を出た直後、ゼルダの携帯にマルスから電話が掛かってきた

プルルル～、プルルル～

ゼルダ『はい。もしもし？』

マルス『もしもし。ゼルダ？マルスだけビー』

ゼルダ『はい、ゼルダです。マルスさん、どうされたんですか？』

マルス『ゼルダさ、ピット見てない？』

ゼルダ『ピットさんならさつきまでマリオ家にいましたよ

マルス『えつ、本当？』

ゼルダ『ええ』

マルス『ゼルダありがとう。じゃあ切るね
ゼルダ『いえ、お役に立てよかつたですわ。では』

ブツ

ピットの予想が当たったようだ

ピットは今度はスネーク家に向かった

スネーク家に到着

ピンポン、ピンポン

ガチャ

すぐにトレーナーが出てきた

トレーナ『ピット君……今日はお客様が多いな……』

ピット『お客様？僕の他に誰が来てるの？』

トレーナ『フルコンさんとコカだよ』

ピット『じゃあ、僕はいいや。またね』

トレーナ『えつ。あ、うん。またね』

ピットはスネーク家を後にした

ピットがスネークを後にした直後、ロイからトレーナーへと電話が掛かってきた

（

トレーナー（ロイ君から電話だ。なんだかい…）『

ピット

トレーナー『はい。ロイ君、ビックリしたの？』

ロイ『トレーナー君、ピット見てない？』

トレーナー『ピット君へ。ピット君ないわ。おまえで家にこたよ』

ロイ『マジで…？』

トレーナー『うん。すぐ、じつになくなっちゃたけど』

ロイ『トレーナー、ありがとう。じゃあね』

トレーナー『あ、うん。じゃあね』

ピット

トレーナーはピット君なんかやったのかな？と思いつながら家に入つて
いった

その頃、マルス、ロイ、アイクの3人はとこうと…

ロイ』やつぱり、マリオ家とスネーク家に行ってたね。ピット

アイク『ああ』

マルス』でも、みんなに連絡まわしといったから楽勝しよ』

そう。マルス達はみんなに電話をして、ピットを連絡するように頼んでおいたのだ

→3人が電話した人→

- ・ウルフ
- ・エミー
- ・エスピオ
- ・サムス
- ・シャドウ
- ・ソニック
- ・トレーナ
- ・ダークリンク
- ・リンク
- ・フォクス
- ・ファルコ
- ・ルイージ
- ・ベクター
- ・ルカリオ
- ・マリオ
- ・マタナイト
- ・デデデ
- ・ガノンドルフ
- ・マスター

・クリエイジ

・リン

ちなみにリンはアイクが電話した（電話したというかマルスに電話させられた）

未だにピットは逃亡中

続く

一件落着！？

みんなに連絡されて逃げ場を失ったピット

学校に避難しようとしたが、途中の公園でサッカーをしていたダークリンク、カービィ、ネス、ピカチュウ、ピチュー、リオル、クッパジャー、に見つかりその場を逃げ出した

今度は何気無く歩いていると、買い物途中だった、リンク、お母さん（サムス）に遭遇した

僕はリンクがマルスに連絡する前にその場を離れた

お母さんが、何か言っていたようだつたが僕はそれを無視して走り続けた

いっぱい走った僕は、いつの間にか森に入っちゃたんだ…。これから僕、

『ピット』（僕、いつの間にか森に入っちゃたんだ…。これから僕、どうしよう…）

と不安になってしまったピット

とその時

力サカサ

『ピット』（今の音なんだろ？…）

ガサ

そこに現れたのは赤いピクミンだった

ピック（何だピクミンだったのか…良かった）』

僕が安堵の表情を浮かべて、その赤いピクミンが『——』と鳴いて擦り寄ってきた

ピック（どうしたの？）』

と聞くとその赤ピクミンは僕の服を引っ張りながらどこかを指差して、いた

僕はその赤ピクミンの指差す方へ行くことにした

ピクミンの指差すところへ行くことにした

青いピクミン、黄色いピクミン、緑のピクミン、白いピクミンが、つぱつぱして中心にはオリマーさんとG&Wがいてみんな一生懸命ピクミンを探していた

ピクミン達（赤ピクミン、ビードルー）（赤ピクミン、ビードルー）

オリマー『赤ピクミン。どう行ったんですか？…出でてください』

G&W『ピクミン。ドーブ、イッタテスカ？テテ、キテトさ
い』

それを聞いた僕は赤ピクミンを連れて行くことにした

『赤ピクニン、おこでー』と僕が叫びた。『おじいちゃんは』『はーー』と謡をながら近づいてきた

ピクニンを抱きかかえた僕はオリマーさん達の元へ

『ピート』あのー、オリマーさん

僕が、呼ぶとオリマーさんは振り向き『あつ』どこか声を漏らし驚いた

オリマーさんは驚いていたが、すぐに笑顔になった

オリマー『ピートさん、ピクニンを助けてくれたんですね。ありがとうございます』

G & a m o - w 『ピートくん、アリガトウ、『ザイマス』

ピート『いえ、別に僕はたいした事してないよ』(謡)

G & a m o - w 『オリマーさん。ピートくんをイヒシコウタインテハ?』

オリマー『やうだね。ピートくん、我々の家に来てくれるかい?』

『ひば』

G & a m o - w 『トハ、イキマシワカーテー』

そして僕はオリマーさんの家に行く事になつた

～5分後～

オリマー『いいだよ。ピットくん

ピット『わあー！…すごい、ツリーハウスだ

G&a m p;・W『ドウヅ、ハイッテ下さん』

僕は初めてオリマーさんの家に入った

オリマー『どうぞ、座つてください

『じはピット』

僕はソファーコモックと腰を掛けた

中はきれいで温かみのある洋風の部屋だった

オリマー『といひでピットくん。なぜあんな所にいたんだい？』

オリマー『イタズラしたら…？』

オリマー『ちよつと、マルスにイタズラしたら…？』

G&a m p;・W『コウチャガ、ハイリマシタヨー…』

と書いてG&a m p;・Wが紅茶とケーキが乗ったおぼんを持ってくれた

ピット『G&W』ありがとうございます。わあー、美味しいぞうーー。』

「...一
『実はそのケーキG&Wさんが作つたんですよ

『レシト、やつなんだあ——、ワソクみたい』

僕は早速一口食べた

ペク!!ン達『――、――、――、――』（僕達も、手伝つたんだよ――。）

ピクミン『なんだ。ピクミン達、えらいね』

さつき助けた赤ピクニンは『ハーハー』と鳴きながら僕に近づいてきた

赤ピクミンは甘えたいのか僕に擦り寄ってきた

僕が赤ピクミンの頭を撫でたら、赤ピクミンは嬉しそうに『ハーハー』と鳴いた

オフマー『赤ペペクニンに好かれてしまったようですね。ところで、ペペトくんどうしてあそこにいたんですか?』

ピット『マルスにイタズラしたら、マルスがめっちゃ怒つてみんなに連絡されて、それで逃げてきた』

オリマー『さうだったんですか…』

ピット『僕、どうすればいい?…』

オリマー『素直に謝れば、きっと許してくれますよ』

ピット『うかな…でも…』

オリマー『我々も一緒に行きましょうか?』

ピット『えつ、いいの?..』

オリマー『ええ。その子を助けてくれたお礼です』

G & amp; W『ケーキヲ、モッティイッテハ、ドウデスカ?..』

オリマー『良いですね。ケーキならいっぽいありますしね』

ピット『ケーキもいいの?』

オリマー『ええ。もちろんですよ』

僕達はケーキを選んでから家に向かった

～10分後～

ピット『ただいま…』

ピットの声をいち早く聞いたマルスが『ピット』と呟びながら玄関に走ってきた

ピックアート『オリマーさん、G&ムロ・ミ、ピクニック達が入って
トモコ』

オリマー『おじやまします』G&ムロ・ミ『オジヤマイスマス』ピ
クニン達『ハーハー』

ピックアート『マルス…あなたが…』

マルス『えつ、（謝つてくれると想わなかつた…）もういいよ…次か
りはするなよ』

G&ムロ・ミ『コレ。ケーキーテス。ドウゾ』

いつの間にかみんな玄関に集まつていた

サムス『どうぞ、あがつてください』

オリマー『はい。では、お言葉に甘えて』

こんな感じでひとまず解決したのであつた

終わり。

おまけ

その後、オリマー達はピクニン達がファルコン家のチビッコと仲良
くなつたのでファルコン家に泊まつた

サボりは後が恐い…

ただいま外国語（英語）の授業中

外国語学科の教師はスネーク

スネーク『This flower is beautiful.
この英文をリンク訳してみる』

リンク『はい。「この花は美しいです」』

スネーク『正解。ですがリンク』

ゼルダ『素敵ですわリンク…』

リンク『ありがとうございます』

この一部始終を見ていたダークがリンクを睨んでいた

スネーク『じゃあ、本文読むぞ』

『That flower is also beautiful.

このalsoの意味をリンク分かるか?』とスネークは黒板を書きながら聞いた

リンク『えつとー……』

リンクが困っていると前の席からノートを契られたような紙がまわった

てきた

前の席はアイクだった

紙を開いてみると「～もまた」と書いてあった

スネーク『分からぬいか?』

リン『～もまたです』

スネーク『正解だ』

リン『ありがとうアイク／＼』

アイクは『いや…別に』と言つて前を向いた

2人のやり取りを見ていたマルスとロイが『ラブラブ～』と言つて
茶化してきた

アイクは無表情のまま

リンは照れて俯いている

スネーク『ところで、リンの後ろの席は誰だ?』

リン『ウルフです』

スネーク『ウルフはどうした?』

ファルコ『アイツの事だからサボりじゃね!?』

スネーク『あの、バカ息子（怒）』

その頃ウルフは… ファルコの言つた通りサボっていた

ウルフは屋上で寝ていた

ウルフ『んあー。良く寝たぜ』

ウルフが起きたときにチャイムが鳴った

次の授業は生物

ウルフは生物の授業もサボり

その後もウルフは全ての授業サボつた結果マスターに呼び出しされた

マスターに呼び出されたウルフは校長室に向かつた

マスター『来ましたね… ウルフ君』

ウルフ『あ、はい…』

マスター『なぜ、呼ばれたかわかりますか？』

ウルフ『……？』

マスター『サボつたからですよ

ウルフ『あ、はい…』

マスター『なぜ、サボつたんですか?』

ウルフ『……授業が面倒くさかつたから……』

マスター『面倒くさかつたですか?』

ウルフ『……』

マスター『貴方は学校に遊びに来ているんですか?』

ウルフ『いいえ……』

マスターは『じゃあサボるなよ! 次サボつたら……どうなるか分かりますよね』と二口ッと微笑みながら指をポキポキ鳴らしながら言った

ウルフに悪寒が走った

ウルフ『は、はい』

一応、これでマスターのお説教は終わり帰つたウルフ

終わり。

おまけ

家に帰つてからもウルフはスネークにもじつ酷くお説教されたらし
い……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2835w/>

私立スマ村学園

2011年11月24日21時02分発行